

若者および女性の定着や活躍について

若者および女性の定着や活躍についてデータ等から推察される事項

- 20代が転出者の大半を占めている（スライド3）
- 女性は男性に比べて、福岡市への転出者が多い（スライド7, 8）
 - ・自身の能力や大学等で学んだ専門分野を生かせる業種、職種が少ない（スライド11, 16）
 - ・男子学生は、「製造業」、「情報サービス業」、女子学生は「医療」、「教育・学習支援」、「保健・福祉・介護」を希望する割合が高い（スライド11）
 - ・また、「やりたい仕事であれば、規模を問わない」との回答が最も多い（スライド12）
 - ・その一方で、北九州市には、男性従事者が多い建設業、運輸業などが集積し、女性の職業の選択肢が少ない（スライド14）
 - ・福岡市は情報通信業や金融業、保険業などが集積し、女性の職業の選択肢が多い（スライド15）
 - ・有効求人との福岡地域との比較でも、北九州地域は「専門的・技術的職業」「事務的職業」の割合が低く、「生産工程職業」の割合が高い（スライド17）

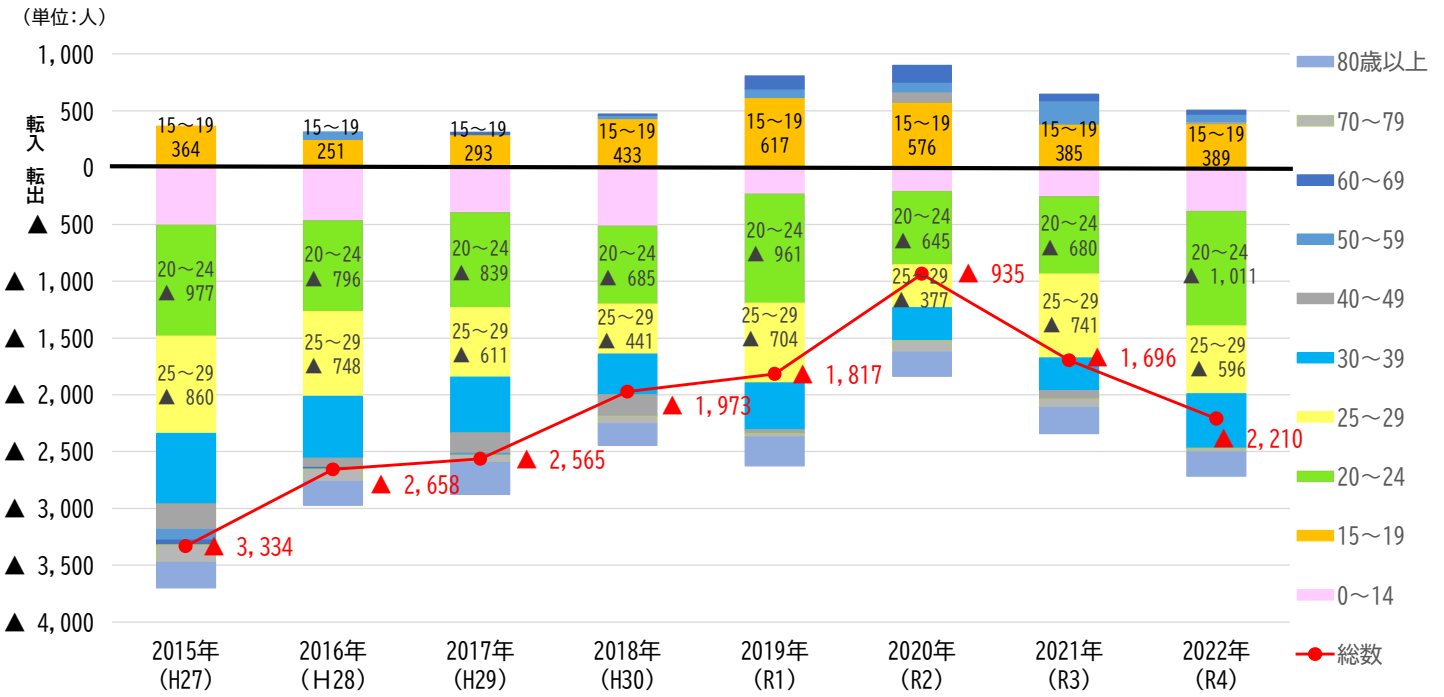
1

➤ 政令市平均と比べて、女性の労働力率が低い（スライド19, 20）

- ・「既婚で子どもがいない未就業女性」は、就業の希望はあるものの、特に行動をしていない人が4割を超えている（スライド21）
- ・「継続することは可能だったが自ら進んで退職した」との回答が5割を超えている（スライド22）
- ・「第1子の妊娠・出産・育児」「結婚」を理由に退職した割合が約4割となっている（スライド22）
 - ⇒男性の就業が多い「製造業」「運輸業」などは交代制が多いため、結婚や出産を契機にやむなく退職する背景も推察される（スライド14）
- ・さらに、「会社の制度や慣習などの問題で継続することは難しく、やむなく退職した」との回答も2割を超えている（スライド22）
- ・また、「性別役割分担意識」では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」の肯定派が、60代の男性の4人に1人、29歳以下でも、男性は6.2%、女性は17.0%となっている（スライド23）

2

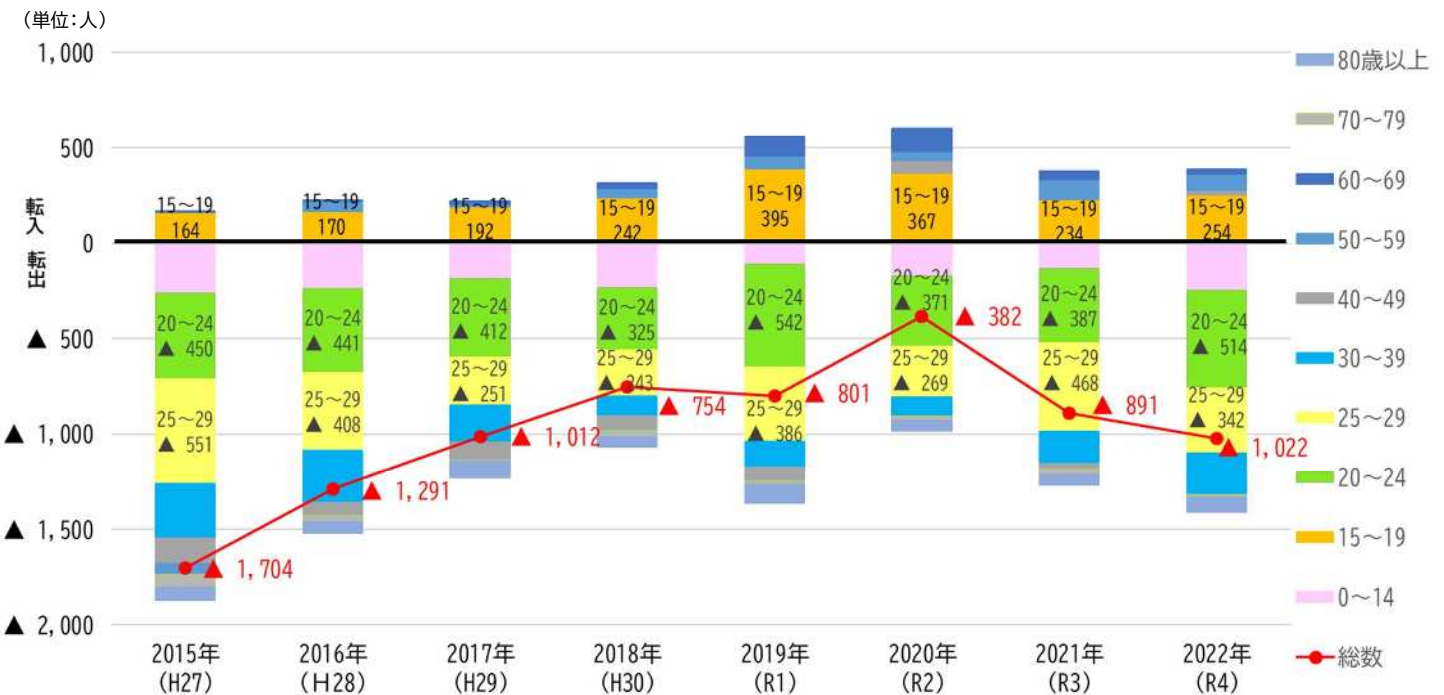
年齢階級別の社会動態の推移（日本人）



- ・ 15~19歳は転入超過であるが、就職や転職、結婚、子育て期の20歳代、30歳代は転出超過となっている。
- ・ R4（2022）年の20~24歳の転出超過数は、地方創生の取組みを開始したH27(2015)年以降、最多の▲1,118人となっている。

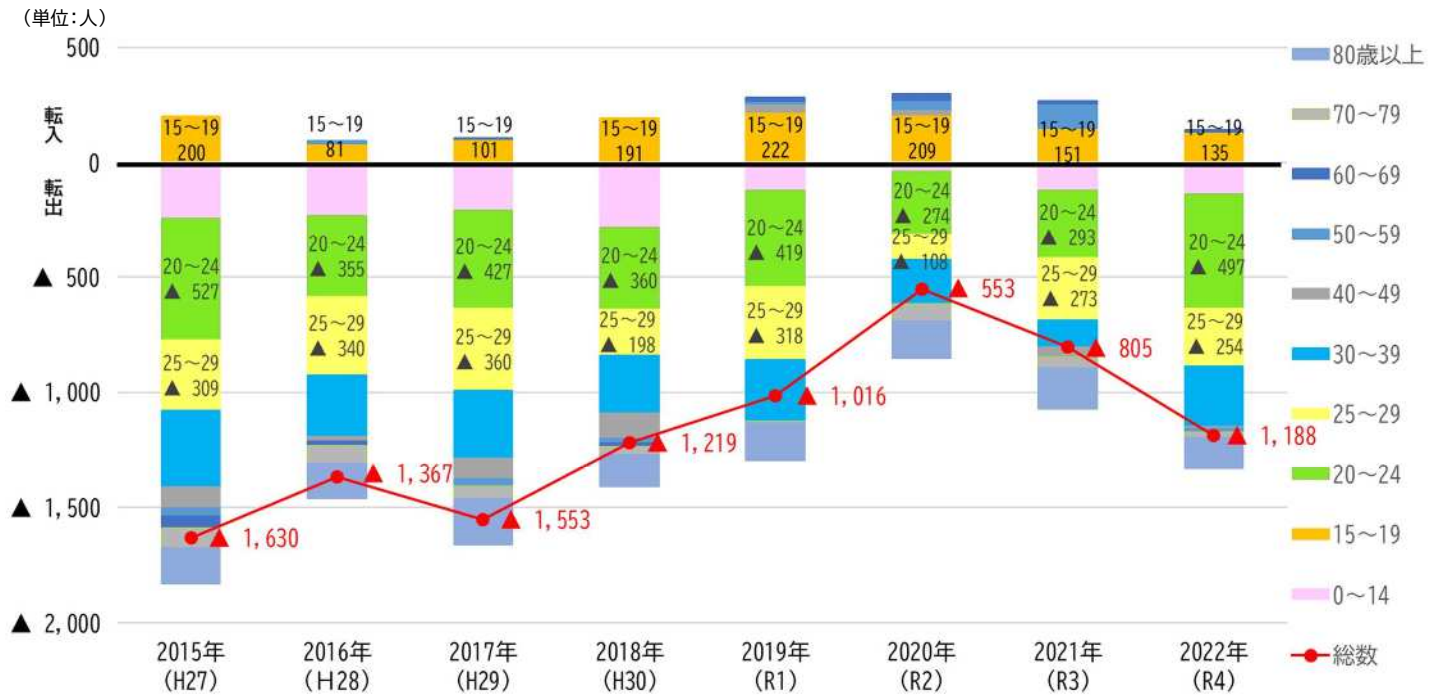
3

年齢階級別の社会動態の推移（日本人：男性）



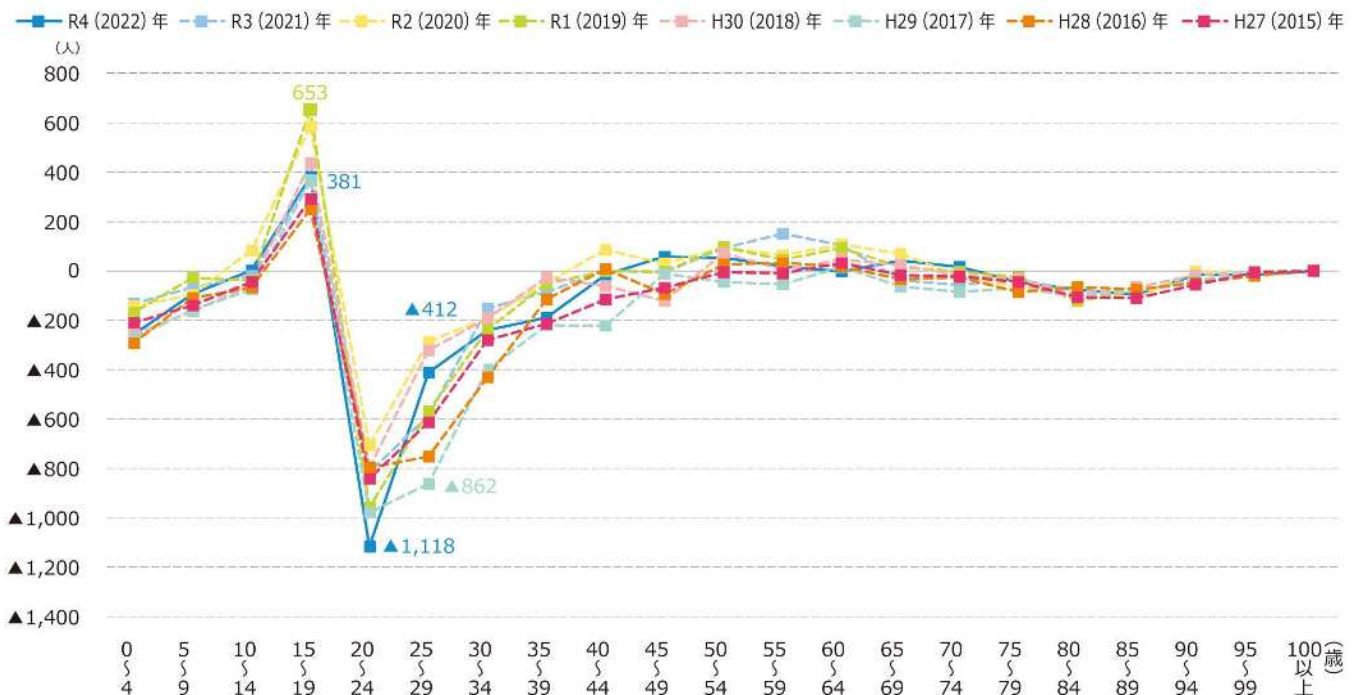
4

年齢階級別の社会動態の推移（日本人：女性）



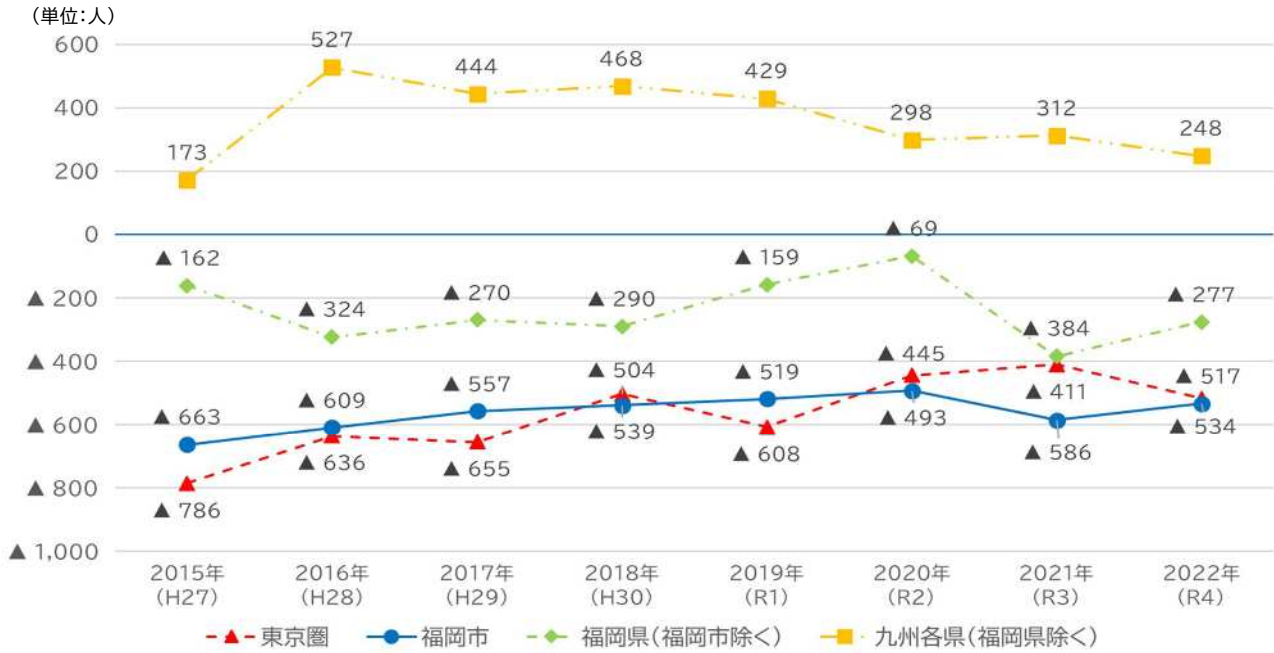
出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

参考：年齢階級別の社会動態の推移（日本人）



出典：福岡県「人口移動調査」

主要地域別の社会動態の推移（日本人：男性）

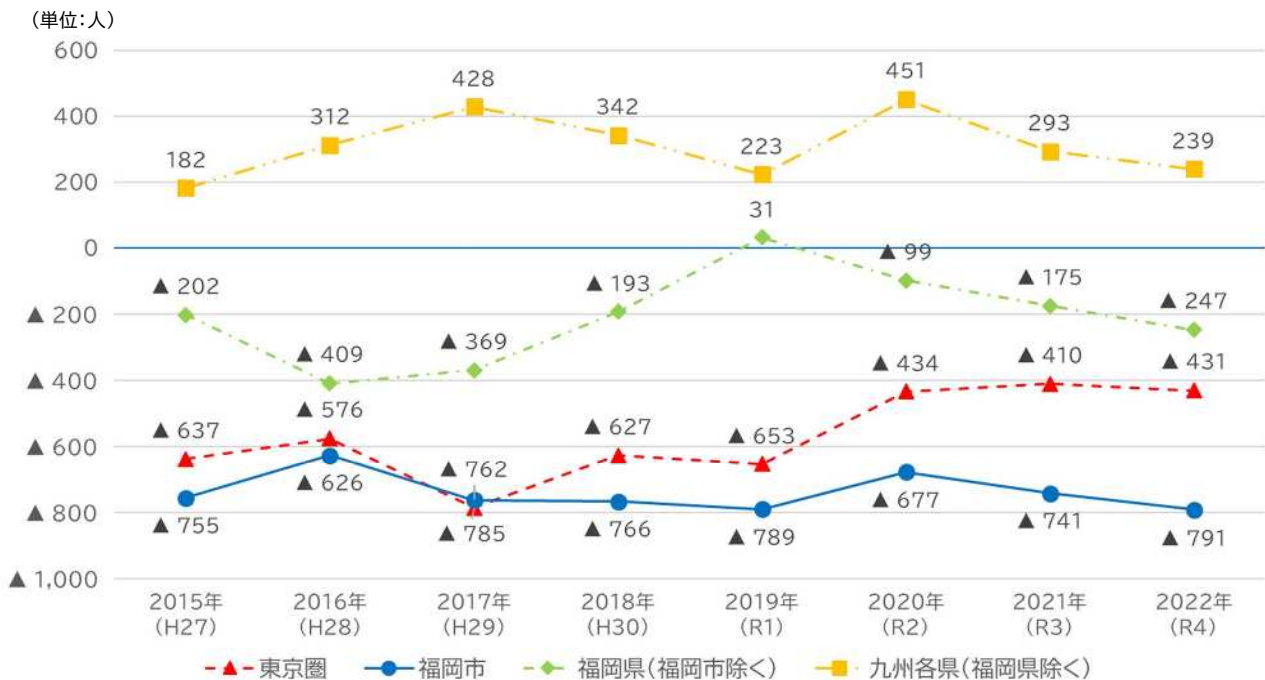


出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

- ・東京圏への転出超過は、減少傾向にあったが、R4 (▲517人) は対前年比で増加した。
- ・福岡市への転出超過は、▲400人～▲600人台で推移している。
- ・福岡県内 (福岡市除く) への転出超過は、R2まで改善傾向であったが、R3に拡大した。
- ・九州各県 (福岡県除く) からの転入超過の傾向に変化はないが、転入超過数は減少傾向にある。

7

主要地域別の社会動態の推移（日本人：女性）

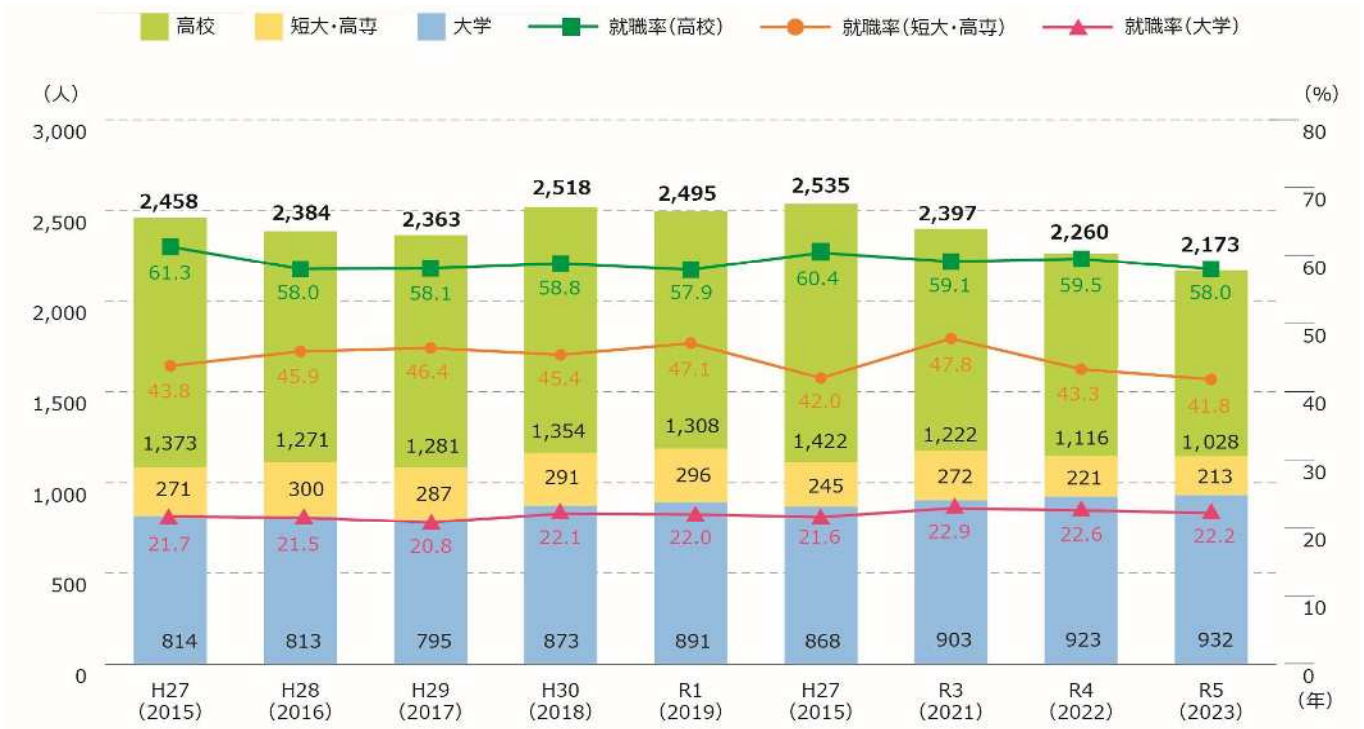


出典：北九州市「推計人口、及び推計人口異動状況」

- ・東京圏への転出超過は、減少傾向にある (H29：▲785人→R4：▲431人)。
- ・福岡市への転出超過は、男性より多く、▲600人～▲700人台で推移している。
- ・福岡県内 (福岡市除く) への転出超過は、R1まで改善傾向にあったが、R2以降拡大している。
- ・九州各県 (福岡県除く) からの転入超過の傾向に変化はなく、概ね200人～400人台で推移している。

8

北九州地域の大学等3月卒業者の年別・市内就職率の推移

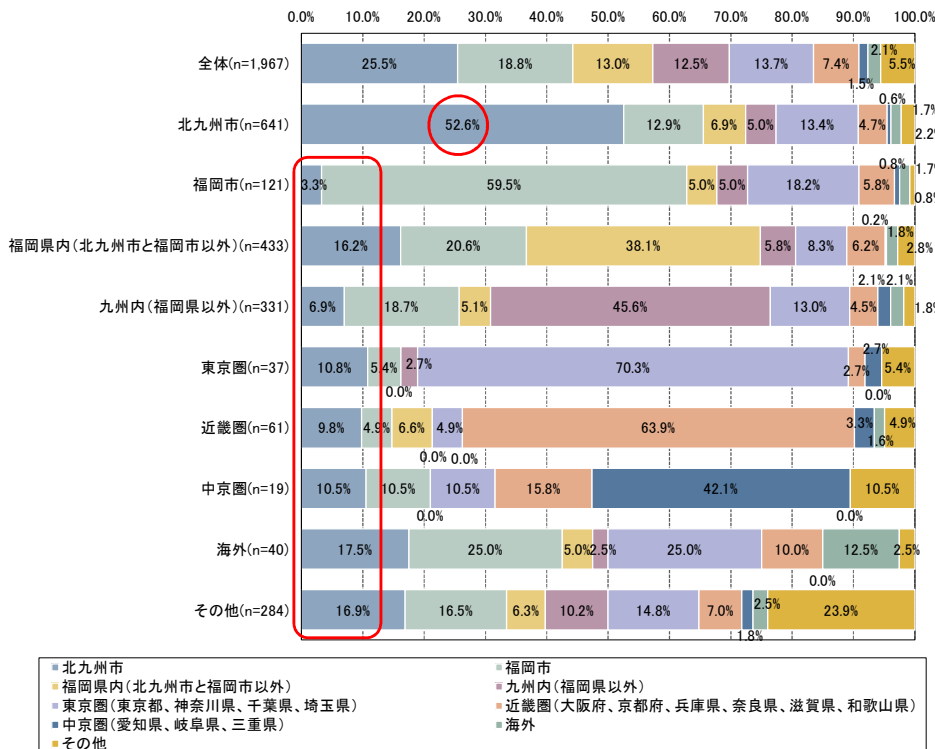


出典：北九州市

・令和5年3月の北九州地域の大学等の市内就職率は、大学は22.2%、短大・高専は41.8%、高校は58.0%となっている。

北九州市内の大学生等が就職先として、最も希望する地域（学生アンケート）

■ 就業先として、最も希望する地域（出身地とのクロス結果）



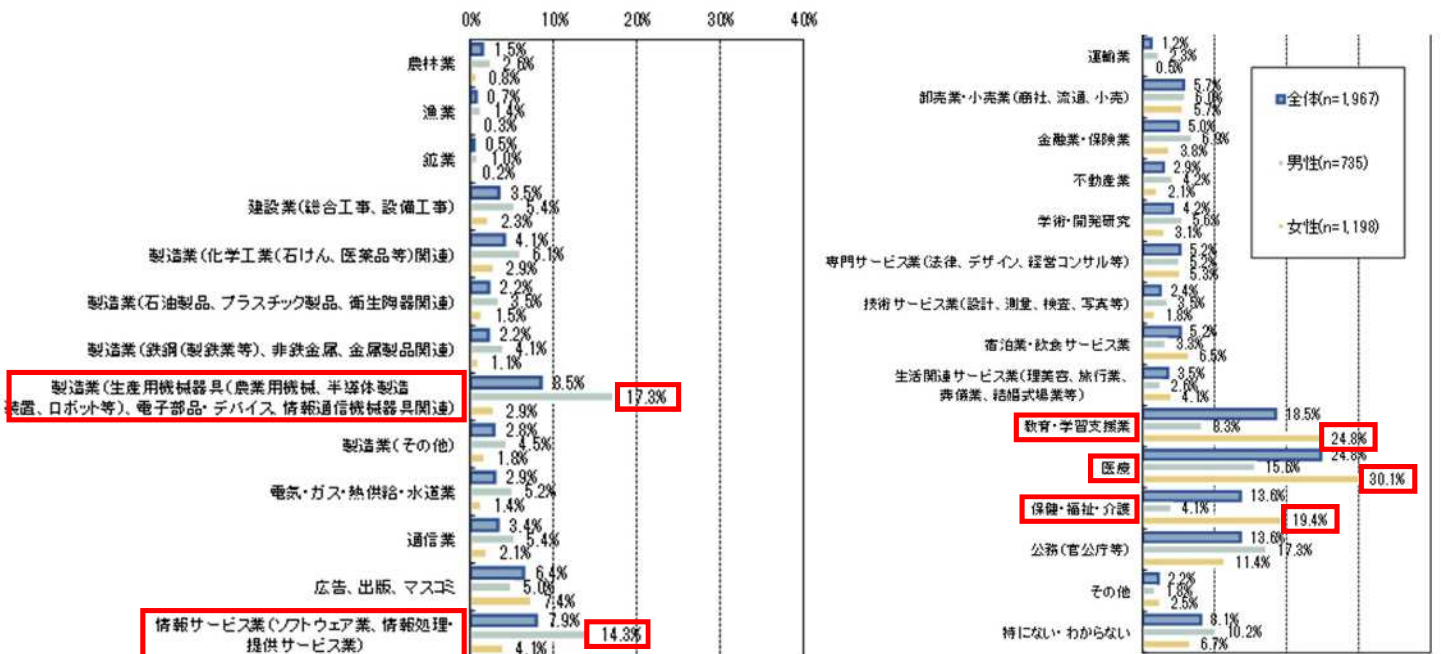
【就職に関する学生アンケート】

- 調査対象等
 - ①北九州市内の大学、短期大学、高等専門学校に在籍する学生
 - ※次の学年を対象（約24,087人）
 - ・大学（1～6年生／修士・博士課程前期1,2年生）
 - ・短期大学（1,2年生）
 - ・高等専門学校（4,5年生／専攻科1,2年生）
 - ②有効回答者数2,189人（有効回答率9.1%）
 - ③調査期間 令和5年5月8日～26日

・北九州市出身者は、52.6%が北九州市での就職を希望。
 ・北九州市以外の出身者は、北九州市での就職を希望する割合が10%前後と少ない。

北九州市内の大学生等が希望する業種（学生アンケート）

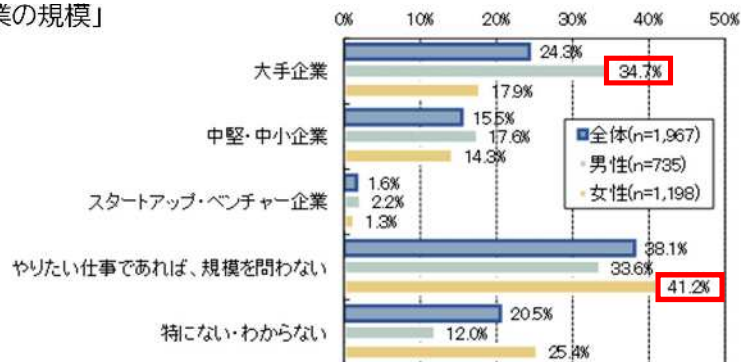
■ 男女別の「希望する業種」



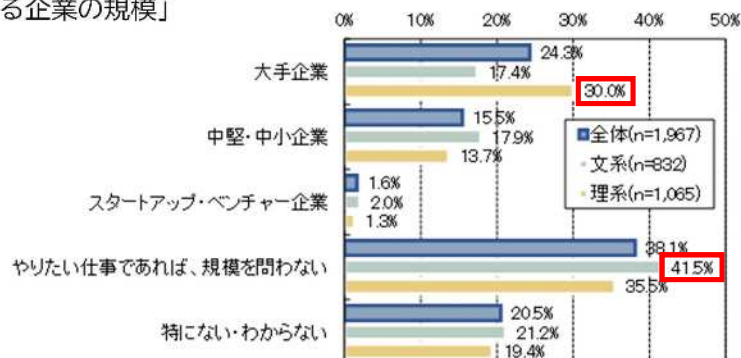
- ・男性は「製造業（生産用機械器具、電子部品、情報通信機械器具関連）」「情報サービス業（ソフトウェア業等）」の希望が多い
- ・女性は「医療」、「教育・学習支援」、「保健・福祉・介護」を希望が多い。

北九州市内の大学生等が希望する企業の規模（学生アンケート）

■ 男女別の「希望する企業の規模」



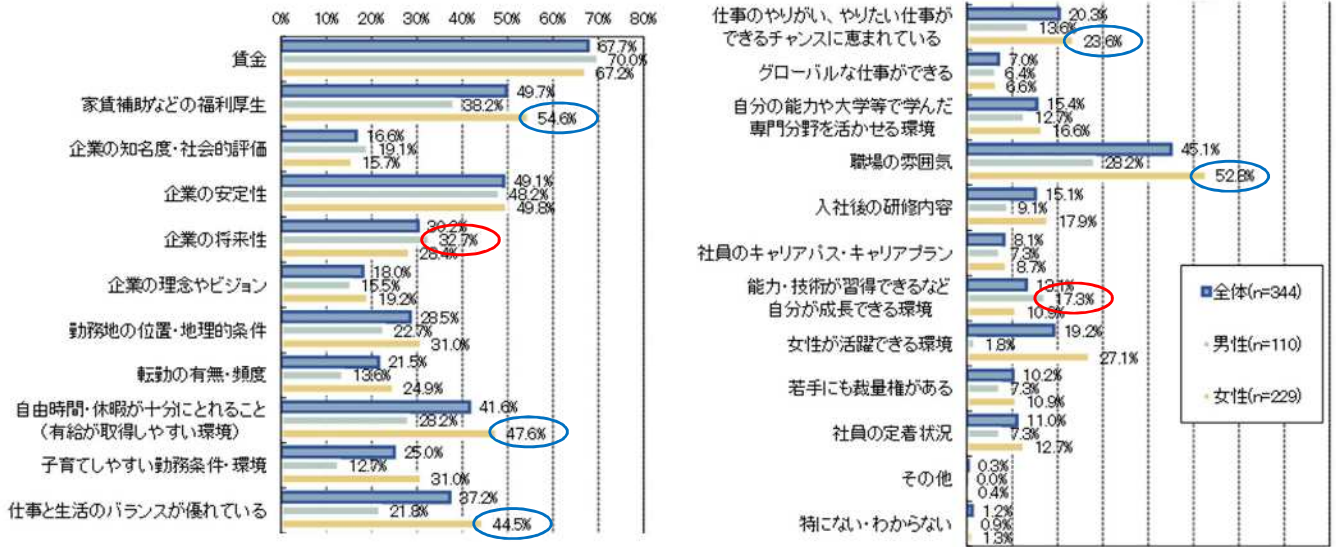
■ 文系・理系別の「希望する企業の規模」



- ・男女別では、男性は「大手企業」、女性は「やりたい仕事であれば、規模を問わない」の割合が高い。
- ・文理別では、理系は「大手企業」、文系は「やりたい仕事であれば、規模を問わない」の割合が高い。

北九州市内の大学生等が知りたい市内企業の情報（学生アンケート）

■ 男女別の「知りたい市内企業の情報」



- ・男女とも「賃金」「補助などの福利厚生」「企業の安定性」に関心が高い
- ・男性は「企業の将来性」「能力・技術の習得などの自分が成長できる環境」に関心が高い（赤枠）
- ・女性は「職場の雰囲気」「有給が取得しやすい環境」「やりたい仕事ができるチャンスに恵まれている」などに関心が高い（青枠）

性別・産業別就業人口と特化係数(R2年)



注：特化係数 全国平均の構成比を1とした場合の北九州市の構成比の係数であり、この係数が1以上であれば、当該産業が集積していることを示す。

出典：総務省「令和2年国勢調査」

- ・産業別の就業人口は、男性は「製造業」「卸売業・小売業」「建設業」の順で、女性は「医療・福祉」「卸売業・小売業」の順で多い。
- ・北九州市は、「建設業」「運輸業・郵便業」「医療・福祉」などの特化係数が1を超えており、当該産業が集積している。

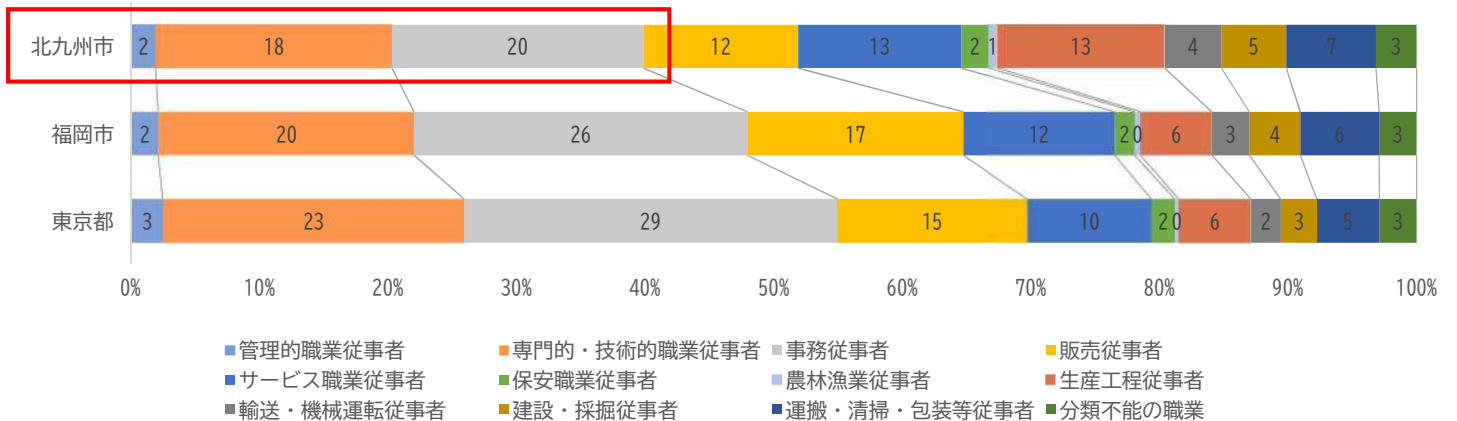
参考：福岡市の性別・産業別就業人口と特化係数



・福岡市には、北九州市に集積していない（北九州市の特化係数が1を下回る）「電気・ガス・熱供給業」「情報通信業」「金融業、保険業」「不動産・物品賃貸業」「学術研究、専門サービス業」等が集積している。

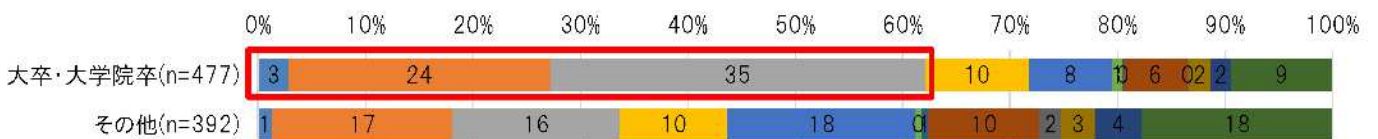
15

職種の状況（北九州市、福岡市、東京都）



【参考】学歴別 職種分布（18~34歳の就業者）

※WEBアンケートによる抽出調査であるため、厳密には国勢調査と比較できない点に留意が必要



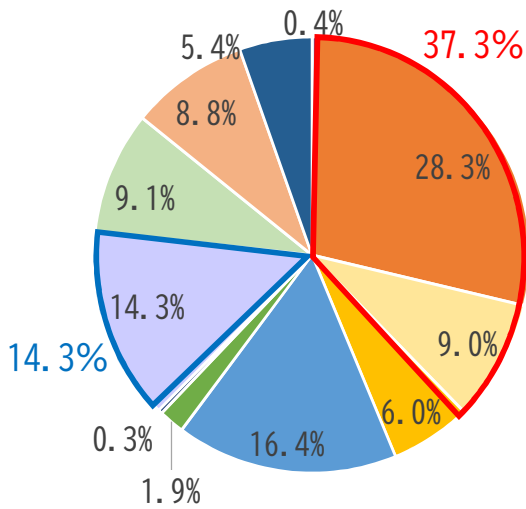
・北九州市は、福岡市と東京都と比較して、大学卒・大学院卒者の就業割合が高い「管理的職業」「専門的・技術的職業」「事務」従事者が少ない。

16

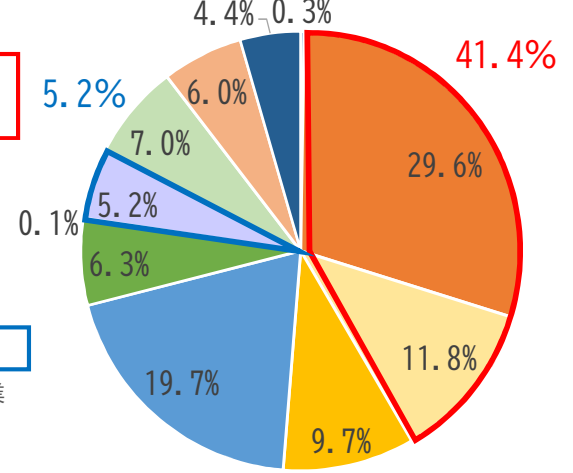
有効求人の職種構成（北九州地域と福岡地域の状況）

■有効求人【常用・フルタイム】

北九州地域



福岡地域



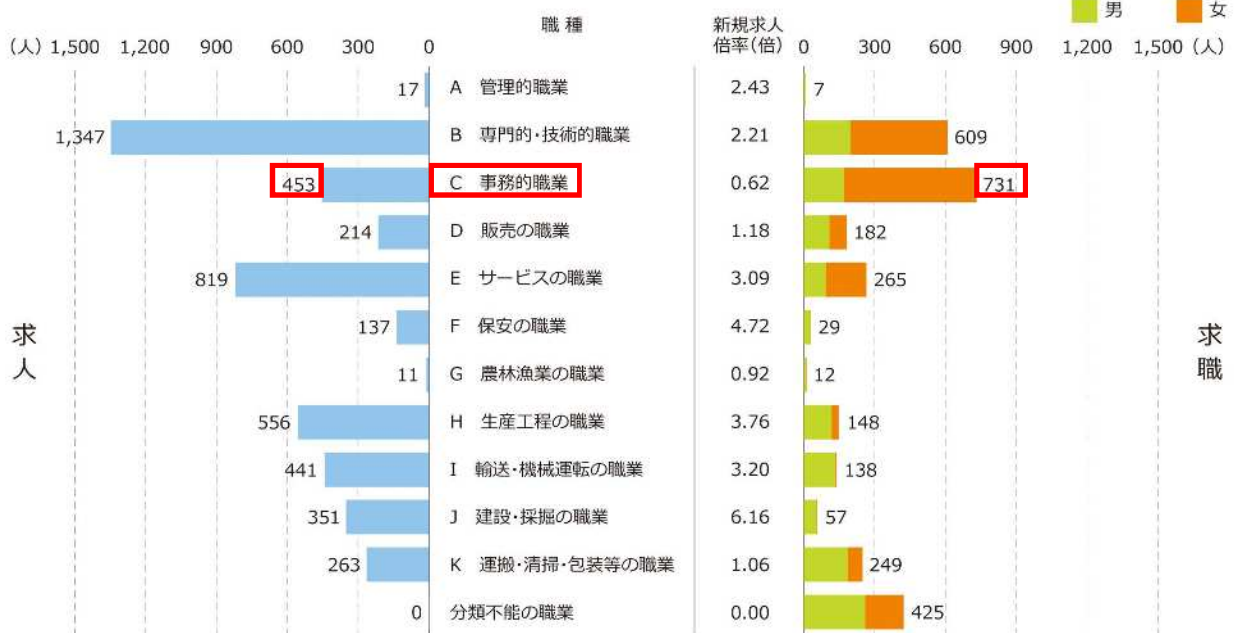
- A 管理的職業
- B 専門的・技術的職業
- C 事務的職業
- D 販売の職業
- E サービスの職業
- F 保安の職業
- G 農林漁業の職業
- H 生産工程の職業
- I 輸送・機械運転の職業
- J 建設・採掘の職業
- K 運搬・清掃・包装等の職業

出典：福岡労働局 職業別：有効求人・求職状況（常用・フルタイム）（R5.5）

・有効求人の特徴として、北九州地域は「専門的・技術的職業」「事務的職業」の割合が低く、「生産工程職業」の割合が高い。

17

職種別の新規求人・求職の状況



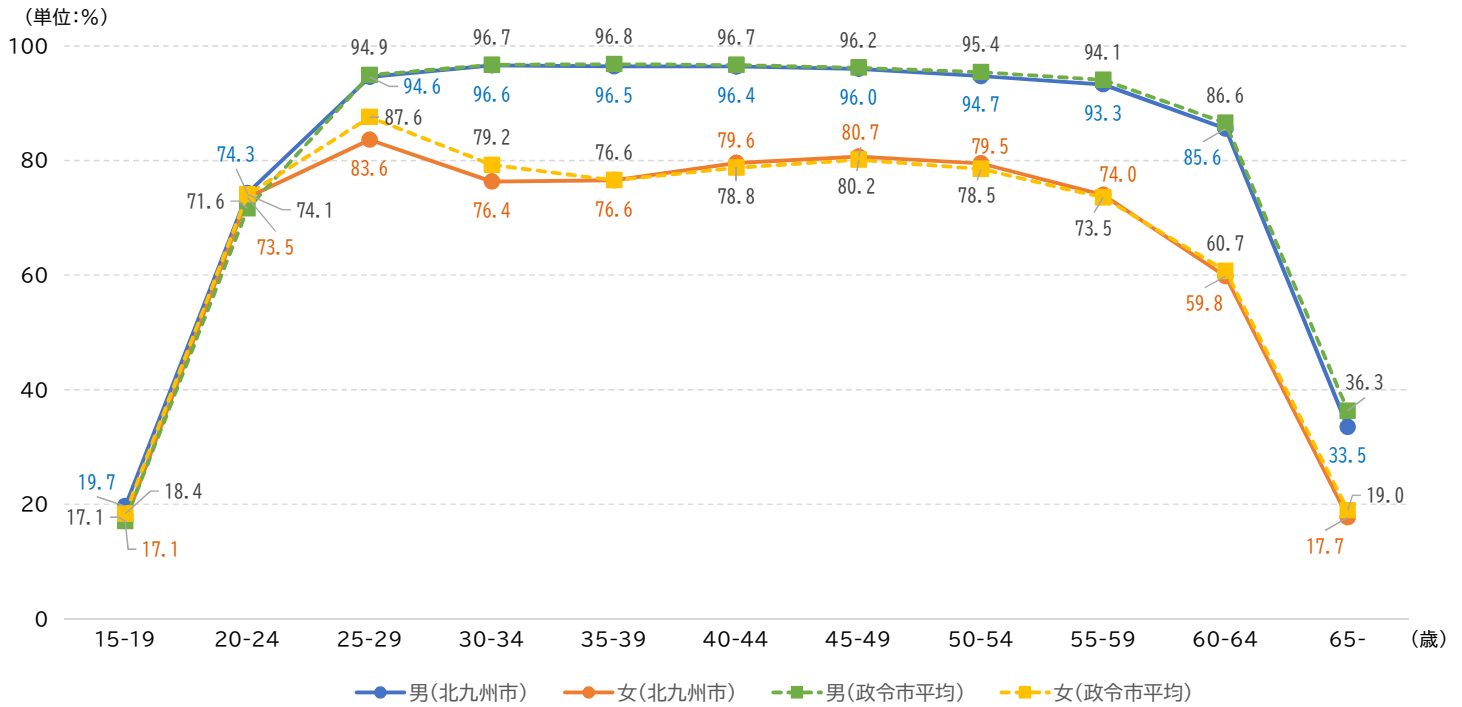
注：R5年4月分

出典：北九州市

・求職に占める女性の割合が高い「事務的職業」では、求職数が求人数を上回っている。

18

年齢階級別労働力率



注：労働力率：各年齢（5歳階級）に占める労働力人口の割合
令和2年国勢調査に関する不詳補完結果

出典：総務省「令和2年国勢調査」

- ・北九州市の女性の年齢階級別労働力率は、特に25-29歳、30-34歳で政令市平均より低い。
- ・北九州市、政令市平均ともに女性は30歳代を谷とするM字カーブを描き、男性は台形を描く。

年齢階級別労働力率

【男性】 単位：%

年齢	政令市平均	北九州市	福岡市
15-19	17.1	19.7	16.5
20-24	71.6	74.3	70.7
25-29	94.9	94.6	93.6
30-34	96.7	96.6	96.5
35-39	96.8	96.5	96.9
40-44	96.7	96.4	97.0
45-49	96.2	96.0	96.4
50-54	95.4	94.7	95.8
55-59	94.1	93.3	94.2
60-64	86.6	85.6	87.2
65-	36.3	33.5	38.8

【女性】 単位：%

年齢	政令市平均	北九州市	福岡市
15-19	18.4	17.1	18.3
20-24	74.1	73.5	76.0
25-29	87.6	83.6	88.6
30-34	79.2	76.4	81.5
35-39	76.6	76.6	78.0
40-44	78.8	79.6	80.2
45-49	80.2	80.7	81.5
50-54	78.5	79.5	79.5
55-59	73.5	74.0	74.1
60-64	60.7	59.8	61.1
65-	19.0	17.7	20.1

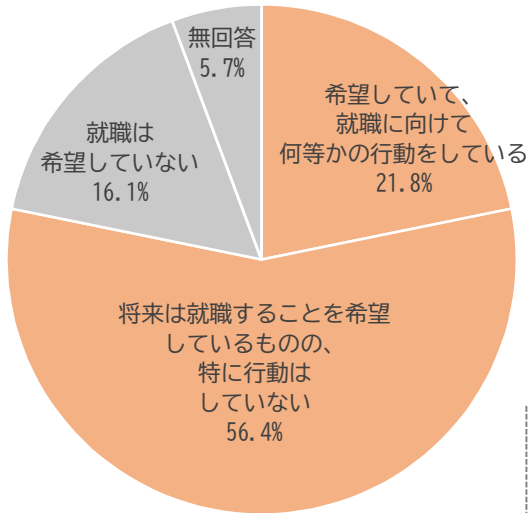
注：労働力率：各年齢（5歳階級）に占める労働力人口の割合
令和2年国勢調査に関する不詳補完結果

出典：総務省「令和2年国勢調査」

- ・20-24歳、25-29歳、30-34歳の労働力率は、政令市平均と比較して、福岡市は高い一方で、北九州市は低くなっている。

未就業女性の就業希望

就業の希望 (未就業女性 N=1,849人)



婚姻・子どもの状況別：就業の希望 (未就業女性 N=1,849人)

	希望していて、就職に向けて何等かの行動をしている	将来は就職することを希望しているものの、特に行動はしていない	就職は希望していない
既婚・子ども有	16.7%	62.6%	15.2%
既婚・子ども無	26.9%	44.5%	24.7%
未婚・子ども有	54.5%	25.5%	5.5%
未婚・子ども無	41.8%	34.7%	16.4%

【北九州市未就業女性の活躍戦略策定事業報告書】

■調査対象等

①ア：市内在住の25～44歳の女性のうち、住民基本台帳データより20,000人を無作為抽出

イ：市内に事業所を有する企業のうち、3,000事業所を無作為抽出

②有効回答数

ア：7,168人（有効回答率36%）

イ：1,255事業所（有効回答率42%）

③事業期間 平成29年5月～11月

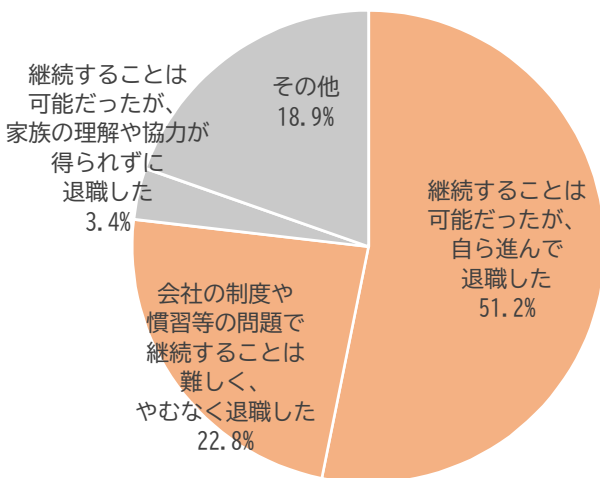
出典：北九州市未就業女性の活躍戦略策定事業報告書（平成30年3月）

- ・約8割の未就業女性は、現在もしくは将来就業することを希望。
- ・既婚者で子どもがいない層は、就業の希望はあるものの、現在は特に行動していない人が4割を、未婚者で子どもがいない層は、就業の希望はあるものの、現在は特に行動していない人が3割を超えている。

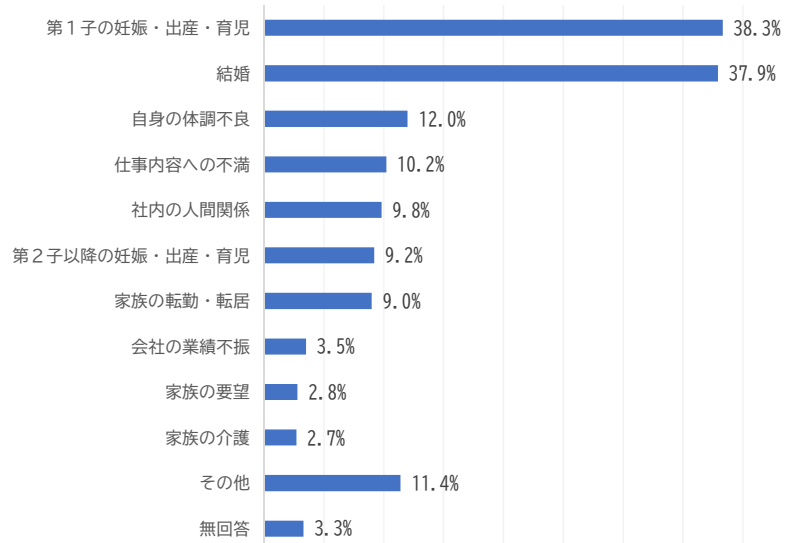
21

仕事を辞めた状況・理由（女性）

仕事を辞めた状況 (就業経験者 N=1,799人)



仕事を辞めた理由 (複数回答、就業経験者 N=1,799人)



出典：北九州市未就業女性の活躍戦略策定事業報告書（平成30年3月）

- ・女性の仕事を辞めた状況としては、51.2%が自らの意思で退職している。
- ・直近の仕事を辞めた理由としては、第1子の出産・育児（38.3%）、結婚（37.9%）となっており、結婚や出産・育児を理由とした退職が高い割合にある。

22

性別役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」という考え方があります。あなた自身の気持ちとしては、この考え方にどの程度同感しますか。

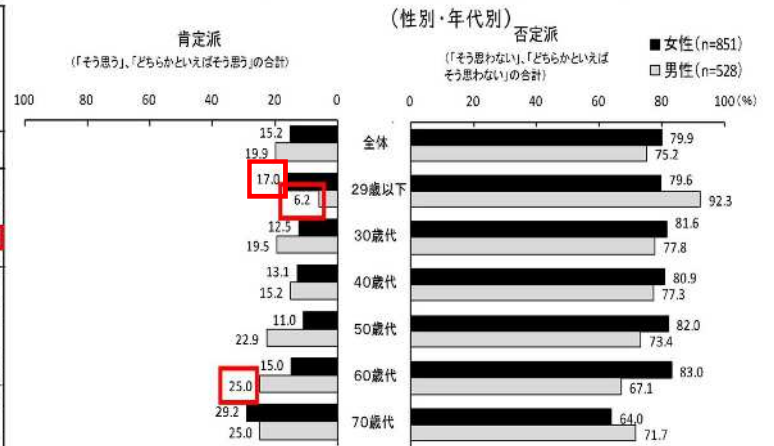
あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方についてどう思いますか。

表Ⅱ-2-1 性別役割分担意識[全体、地域別、年齢別]

		標本数	同感する	する程度同感	なあまり同感しない	同感しない	無回答	賛成派	反対派
全体		2,005	105	712	633	504	51	817	1,137
		100	5.2	35.5	31.6	25.1	2.5	40.7	56.7
地域別	福岡	1,036	5.8	35.5	31.7	25.1	1.9	41.3	56.8
	筑後	328	3.0	35.1	31.4	27.1	3.4	38.1	58.5
	筑豊	129	2.3	28.7	35.7	31.0	2.3	31.0	66.7
	北九州	469	6.2	37.7	30.5	22.2	3.4	43.9	52.7
	無回答	43	7.0	34.9	30.2	25.6	2.3	41.9	55.8
年齢別	女性:18~29歳	118	3.4	28.8	25.4	38.1	4.2	32.2	63.5
	女性:30~39歳	169	3.0	35.5	29.0	31.4	1.2	38.5	60.4
	女性:40~49歳	208	3.8	38.5	35.1	22.1	0.5	42.3	57.2
	女性:50~59歳	235	5.5	34.0	28.9	27.2	4.3	39.5	56.1
	女性:60~69歳	269	3.7	39.0	31.6	22.7	3.0	42.7	54.3
	女性:70歳以上	135	3.7	37.0	29.6	22.2	7.4	40.7	51.8
	男性:18~29歳	76	3.9	18.4	47.4	28.9	1.3	22.3	76.3
	男性:30~39歳	99	10.1	23.2	35.4	28.3	3.0	33.3	63.7
	男性:40~49歳	163	4.3	38.0	31.3	23.3	3.1	42.3	54.6
	男性:50~59歳	150	4.7	33.3	34.0	27.3	0.7	38.0	61.3
	男性:60~69歳	229	5.7	41.0	30.1	21.0	2.2	46.7	51.1
	男性:70歳以上	137	13.9	39.4	29.9	16.8	-	53.3	46.7
		無回答	17	5.9	35.3	29.4	29.4	-	41.2

出典：福岡県「男女共同参画社会に向けての意識調査報告書」

図表2-2 固定的性別役割分担意識についての考え方



出典：北九州市「男女共同参画社会に関する調査」

- ・北九州地域は、福岡県内で最も「男は仕事、女は家庭」の考えに「賛成」の割合が高い。
- ・北九州市の60代男性の4人に1人は、「肯定派」。年代で意識に差が生じているが、29歳以下でも「肯定派」が男性で6.2%、女性で17.0%となっている。